

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年10月3日

【四半期会計期間】 第55期第2四半期(自 平成26年5月21日 至 平成26年8月20日)

【会社名】 株式会社ジーンズメイト

【英訳名】 JEANS MATE CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西脇 昌司

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区元代々木町30番13号

【電話番号】 03(5738)5555

【事務連絡者氏名】 専務取締役 砂田 真一

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区元代々木町30番13号

【電話番号】 03(5738)5555

【事務連絡者氏名】 専務取締役 砂田 真一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第54期 第2四半期 累計期間	第55期 第2四半期 累計期間	第54期
会計期間		自 平成25年 2月21日 至 平成25年 8月20日	自 平成26年 2月21日 至 平成26年 8月20日	自 平成25年 2月21日 至 平成26年 2月20日
売上高	(千円)	4,936,167	4,834,102	9,924,912
経常損失()	(千円)	226,888	5,501	630,749
四半期(当期)純損失()	(千円)	292,878	133,969	756,979
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	2,015,812	2,015,812	2,015,812
発行済株式総数	(株)	12,651,466	12,651,466	12,651,466
純資産額	(千円)	5,802,122	5,205,813	5,341,924
総資産額	(千円)	7,531,714	6,899,830	7,059,101
1株当たり四半期 (当期)純損失金額()	(円)	26.80	12.26	69.27
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	0.00	0.00	0.00
自己資本比率	(%)	77.0	75.4	75.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	393,128	230,063	455,799
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	26,858	405,418	524,918
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	246	62	358
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	849,545	1,460,607	1,285,148

回次		第54期 第2四半期 会計期間	第55期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 平成25年 5月21日 至 平成25年 8月20日	自 平成26年 5月21日 至 平成26年 8月20日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	10.41	4.42

(注) 1. 売上高に消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

継続企業の前提に関する重要な事象等

当社は、前事業年度において営業損失6億82百万円、当期純損失7億56百万円となり、当第2四半期累計期間においても営業損失22百万円、四半期純損失1億33百万円となりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

1. 提出会社の代表者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容

(1) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間(平成26年2月21日から平成26年8月20日まで)におけるわが国経済は、政府の経済政策等により企業収益が徐々に改善され、緩やかな景気回復の流れが続いておりますが、個人消費につきましては、消費税率引き上げや物価上昇等の影響により消費マインドは先行き不透明な状況となりました。

このような経営環境のもと、当社では引き続き業績の回復と安定成長への基盤づくりに向けて取り組んでまいりました。

商品面におきましては、期初の春物商品の立ち上がりで苦戦いたしました。その後、例年よりも早めに投入した夏物商品は順調に立ち上がり、当シーズンの重点販売商品である機能素材(ゼロステイン：汗じみが目立ちにくい素材)を使ったポロシャツや半袖Tシャツをはじめとして、ショートパンツなどが全体を牽引いたしました。その一方で、デニム5ポケット等のボトムス類やアンダーウェア類は前年を下回る水準で推移し苦戦を強いられました。

販売面といたしましては、メール配信や新聞折込広告及び雑誌広告を継続するとともに、重点販売商品の新聞一面広告の掲出やホームページのリニューアル等を実施しながらお客様へのアプローチを充実させてまいりました。

また、プライベートブランド(メンズ「Blue Standard」、レディース「innocent blue」)を軸に生活雑貨等をミックスした新業態店舗「comfort blue(コンフォートブルー)」を4月に立ち上げ、新たなユニセックス業態のチャレンジを開始いたしました。

出退店につきましては、上記の「comfort blue」、「Blue Standard」及び「JEANS MATE」をそれぞれ1店舗(合計3店舗)出店し、「JEANS MATE」の2店舗を退店したことにより当第2四半期会計期間末の総店舗数は99店舗(うち24時間営業店舗は17店舗(すべて「JEANS MATE」))となりました(業態内訳は下表参照)。

以上の結果、売上高48億34百万円(前年同四半期比2.1%減)、営業損失22百万円(前年同四半期は営業損失2億48百万円)、経常損失5百万円(前年同四半期は経常損失2億26百万円)、四半期純損失1億33百万円(前年同四半期は四半期純損失2億92百万円)となりました。

なお、従来より実施していた弊社独自のポイントカード制度は平成26年2月28日をもって終了(ポイントの使用は平成27年2月28日まで可)いたしました。制度が終了したことにより、当第2四半期累計期間の売上総利益率が1.1ポイント改善しております。

業態別店舗数

業態	店舗数	出店地域(都道府県)
JEANS MATE	79店舗	東京 神奈川 千葉 埼玉 静岡 愛知 大阪 兵庫 広島 山口 福岡
ワケあり本舗	12店舗	東京 神奈川 千葉 愛知 三重 大阪 兵庫 福岡
Happy Door	3店舗	神奈川 栃木 広島
Blue Standard	2店舗	大阪 福岡
STREET	2店舗	千葉
comfort blue	1店舗	東京

(2) 財政状態の分析

資産

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ1億59百万円減少し、68億99百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ5億50百万円減少し、39億50百万円となりました。これは主に有価証券が5億29百万円減少、現金及び預金が1億25百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ3億90百万円増加し、29億49百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が90百万円減少しましたが、投資有価証券が4億82百万円増加したことによるものであります。

負債

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ23百万円減少し、16億94百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ24百万円減少し、8億86百万円となりました。これは主に買掛金が86百万円増加しましたが、ポイント引当金が1億9百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1百万円増加し、8億7百万円となりました。

純資産

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ1億36百万円減少し、52億5百万円となりました。これは主に四半期純損失を1億33百万円計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前事業年度末に比べ1億75百万円増加し、14億60百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、2億30百万円(前年同四半期は3億93百万円の支出)となりました。これは主に税引前四半期純損失が1億12百万円、たな卸資産の増加による支出が79百万円、売上債権の増加による支出が60百万円となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、4億5百万円(前年同四半期は26百万円の獲得)となりました。これは主に有価証券・投資有価証券の取得及び償還に伴う純収入が3億30百万円、敷金及び保証金の差入及び回収に伴う純収入が1億4百万円となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、期末配当を行わなかったことにより0百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

2. 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社は、当第2四半期累計期間を含め、継続的に営業損失を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善すべく、商品力及び販売力の強化を中心に収益力の回復に取り組んでまいります。

プライベートブランドの拡充

当社の男性向けメインブランドである「Blue Standard」は発売開始以降、着実に拡大させることができておりますが、これまで未着手であった女性向けのブランドにつきましては前事業年度末に「innocent blue」として立ち上げました。今後は両ブランドをメインにその他のプライベートブランドの動向も検証しながら、お客様にご支持いただけるよう努めてまいります。

売上総利益の改善

プライベートブランドを拡充していくとともに、在庫効率を高めることで売上総利益の改善を目指してまいります。前事業年度の下半期より不振商品の処分を強化した結果、商品在庫の当期首残高は前期首残高に比べ約20%減少いたしました。今後は在庫量や販売期間等を見極めながら、在庫効率の改善に努めてまいります。

当第2四半期累計期間の月末平均在庫原価は前年同四半期に比べ約15%減少しております。

「伝える売場」の構築

従来の価格訴求中心の売場ではなく、個々の商品情報(デザインや機能等のセールスポイント)をお客様に確実に伝える売場を整備し、お客様に購買意欲を高めていただけるような売場づくりに取り組んでまいります。

新業態店舗の確立

これまでは基幹業態である「JEANS MATE」をはじめとして「ワケあり本舗」、「Happy Door」、「Blue Standard」を運営してまいりました。また、前事業年度には「STREET」を、4月には「comfort blue(コンフォートブルー)」を新たな業態としてオープンいたしました。今後は各業態の動向を検証しながら、収益力の強化に取り組んでまいります。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいりますとともに、今後の運転資金は十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

(単位：株)

種類	発行可能株式総数
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年8月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年10月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,651,466	12,651,466	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	12,651,466	12,651,466	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年5月21日～ 平成26年8月20日	-	12,651,466	-	2,015,812	-	2,125,434

(6) 【大株主の状況】

平成26年8月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
西脇 健司	東京都渋谷区	2,579	20.39
西脇 昌司	東京都渋谷区	2,210	17.46
株式会社ジーンズメイト	東京都渋谷区元代々木町30 - 13	1,724	13.63
有限会社ケン・アンド・ ティー・ニシワキ	東京都渋谷区渋谷 1 - 19 - 18 - 1004	599	4.73
ジーンズメイト従業員持株会	東京都渋谷区元代々木町30 - 13	221	1.74
西脇 大輔	東京都文京区	186	1.47
西脇 隆	神奈川県藤沢市	172	1.36
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町 1 - 4	127	1.00
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口3)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	64	0.51
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 - 11 - 3	62	0.49
計	-	7,949	62.83

(注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口3)及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は、127千株であります。

2. 株式会社ジーンズメイトが所有している株式は自己株式であり、会社法第308条第2項の規定により議決権を有しておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年8月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,724,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,773,200	107,732	-
単元未満株式	普通株式 153,466	-	-
発行済株式総数	12,651,466	-	-
総株主の議決権	-	107,732	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権10個)含まれておりません。

【自己株式等】

平成26年8月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ジーンズメイト	東京都渋谷区元代々木町 30 - 13	1,724,800	-	1,724,800	13.63
計	-	1,724,800	-	1,724,800	13.63

(注) 1. 当第2四半期会計期間末現在の自己株式数は、1,724,881株であります。
2. 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が312株(議決権3個)あります。
なお、当該株式のうち300株は上記「完全議決権株式(その他)」に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成26年5月21日から平成26年8月20日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年2月21日から平成26年8月20日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年2月20日)	当第2四半期会計期間 (平成26年8月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	928,095	802,450
売掛金	110,472	170,635
有価証券	1,954,116	1,424,261
商品	1,357,005	1,436,118
その他	151,015	116,979
流動資産合計	4,500,705	3,950,444
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	644,111	1,126,462
敷金及び保証金	1,910,756	1,820,063
長期未収入金	174,000	173,400
その他	3,528	2,860
貸倒引当金	174,000	173,400
投資その他の資産合計	2,558,396	2,949,386
固定資産合計	2,558,396	2,949,386
資産合計	7,059,101	6,899,830
負債の部		
流動負債		
支払信託	149,118	81,252
買掛金	182,447	268,894
賞与引当金	24,633	45,862
ポイント引当金	170,842	61,800
店舗閉鎖損失引当金	-	1,498
資産除去債務	7,864	7,660
その他	376,534	419,810
流動負債合計	911,440	886,779
固定負債		
資産除去債務	457,645	460,442
長期未払金	335,877	335,877
その他	12,214	10,918
固定負債合計	805,736	807,237
負債合計	1,717,176	1,694,017
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	2,458,122	2,324,153
自己株式	1,259,845	1,259,908
株主資本合計	5,339,523	5,205,491
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,404	322
繰延ヘッジ損益	2	-
評価・換算差額等合計	2,401	322
純資産合計	5,341,924	5,205,813
負債純資産合計	7,059,101	6,899,830

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年2月21日 至平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年2月21日 至平成26年8月20日)
売上高	4,936,167	4,834,102
売上原価	2,693,799	2,407,390
売上総利益	2,242,367	2,426,711
販売費及び一般管理費	2,490,583	2,448,870
営業損失()	248,215	22,158
営業外収益		
有価証券利息	15,606	11,239
受取賃貸料	6,225	10,740
その他	6,326	5,696
営業外収益合計	28,158	27,676
営業外費用		
賃貸費用	5,940	10,740
その他	890	278
営業外費用合計	6,830	11,018
経常損失()	226,888	5,501
特別損失		
減損損失	44,667	103,438
店舗閉鎖損失	-	2,226
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	1,498
特別損失合計	44,667	107,163
税引前四半期純損失()	271,555	112,665
住民税	21,323	21,303
四半期純損失()	292,878	133,969

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年2月21日 至平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年2月21日 至平成26年8月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	271,555	112,665
減価償却費	4,095	6,003
減損損失	44,667	103,438
賞与引当金の増減額(は減少)	21,520	21,229
ポイント引当金の増減額(は減少)	2,505	109,042
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	7,664	1,498
受取利息及び受取配当金	15,606	11,337
売上債権の増減額(は増加)	35,172	60,162
たな卸資産の増減額(は増加)	64,748	79,113
仕入債務の増減額(は減少)	105,478	18,581
その他	62,569	19,163
小計	360,508	202,406
利息及び配当金の受取額	16,243	11,759
法人税等の支払額	48,862	39,416
営業活動によるキャッシュ・フロー	393,128	230,063
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	1,092,975	569,189
有価証券の償還による収入	1,155,108	599,099
有形固定資産の取得による支出	15,645	43,525
無形固定資産の取得による支出	14,400	-
投資有価証券の取得による支出	55,000	699,260
投資有価証券の償還による収入	25,000	1,000,000
敷金及び保証金の差入による支出	15	22,133
敷金及び保証金の回収による収入	38,872	126,713
その他	14,085	13,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,858	405,418
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	132	62
配当金の支払額	113	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	246	62
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,962	166
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	364,554	175,459
現金及び現金同等物の期首残高	1,214,099	1,285,148
現金及び現金同等物の四半期末残高	849,545	1,460,607

【注記事項】

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年2月21日 至 平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年2月21日 至 平成26年8月20日)
給与手当	811,930千円	775,516千円
賞与引当金繰入額	46,544	45,862
賃借料	871,062	854,157

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年2月21日 至 平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年2月21日 至 平成26年8月20日)
現金及び預金	892,551千円	802,450千円
預入期間が3か月超の定期預金	43,005	42,000
有価証券	-	700,157
現金及び現金同等物	849,545	1,460,607

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成25年2月21日 至平成25年8月20日)及び当第2四半期累計期間
(自平成26年2月21日 至平成26年8月20日)

当社は衣料品販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年2月21日 至平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年2月21日 至平成26年8月20日)
1株当たり四半期純損失金額()	26円80銭	12円26銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	292,878	133,969
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	292,878	133,969
普通株式の期中平均株式数(株)	10,927,511	10,926,695

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年9月25日

株式会社ジーンズメイト
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久 保 伸 介 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 井 勇 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジーンズメイトの平成26年2月21日から平成27年2月20日までの第55期事業年度の第2四半期会計期間(平成26年5月21日から平成26年8月20日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年2月21日から平成26年8月20日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ジーンズメイトの平成26年8月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。